

2023年度 自己評価・学校関係者評価報告書

自令和5年4月1日 至令和6年3月31日

学) そだちの園 さかのうえようちえん

1. 本園の教育目標

- 1) 健全な心身の発達を促す
- 2) 自立した生活習慣を身につける
- 3) 感謝の心を養う
- 4) 思いやりのある人に
- 5) 最後まで頑張る

2. 本年度重点的に取り組む目標・計画

- 1) 自然にふれる経験を増やすために農園体験を充実する
- 2) 計画的な研修の実施により教職員の資質向上を教育現場に活かす
- 3) 事故防止のため安全管理のあり方を再点検する

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

	評価項目	評価	取り組み状況
1	自然にふれる経験を増やすために農園体験を充実する	A	各学年の発達段階に合わせた農園体験を実施できた
2	計画的な研修の実施により教職員の資質向上を教育現場に活かす	A	園外研修への参加に加え、OJT形式の園内研修により、連続的な指導環境を実現できた
3	事故防止のため安全管理のあり方を再点検する	B	安全管理の内容を再確認ができた一方で、マニュアルへの反映に継続して取り組んでいる

評価 (A…十分に成果があった B…成果があった C…少し成果があった D…成果がなかった)

4. 総合的な評価結果

評価	理由
B	農園体験と園内研修は、予定通りに実施でき、また、教育活動の現場においてもその成果が伺えた。安全管理については、検証と実践を繰り返すことができたので、マニュアルに反映し、次年度以降に継続する課題が残った。

評価 (A…十分に成果があった B…成果があった C…少し成果があった D…成果がなかった)

5. 今後取り組む課題

	課題	具体的な取り組み方法
1	マニュアルの整備・見直し	2023年度に見直しと検証を行った内容をマニュアルに反映し、次年度以降に継続できるようにする。
2	園内研修	園内で指導できる担当者を育成し、評価指標を明確にする
3	農園体験	春季の農園体験をさらに充実する

6.学校関係者の評価

園内での研修が体系的に実施されるようになり、実際の保育内容との関連性がさらに見えてきた。今後も継続し、またそれぞれの教職員が研修に主体的に参加することで資質を向上し、継続的に保育内容を充実させられるようになってもらいたい。

評議員 高橋 徹

農園体験により、幼児が自然にふれる機会がさらに充実した。種植えや手入れ、収穫を通して、自然や食に興味を持ってもらいやすいように、今後も継続してもらいたい。

卒園児保護者 佐藤 暢子